

自由論題 7「南アジアの社会」・報告 2

報告テーマ

ネパールにおける貧困解決策としての「手漉き紙 BOP ビジネス・モデル」の構築
BOP Business Model as Poverty Reduction Strategy “Case Study of Handmade Paper
Industry in Nepal”

氏名(所属)

カルキ シャム クマル(創価大学・院)

要旨(800 字程度)

21 世紀に入り、貧困・格差問題、地球環境・温暖化問題、人権問題、テロリズムといった様々な問題が深刻化しており、焦眉の問題となっている。本研究では、特に貧困問題に注目する。貧困問題を解決する方法として、国際援助機関や NGO などによる援助や、個人や企業の寄付・慈善活動などが見られる。確かに、これらの援助や寄付は貧困問題解決にある程度貢献しているが、2015 年において貧困ライン未満で暮らしている人々の数はなおも約 8 億人に上る。

多くの途上国が貧困問題に直面しているが、ネパールもその最たる国の一つである。ネパールの人口は約 3000 万人に上るが、その中で貧困を強いられている人々の数は約 15%を占める。ネパールにおいては、都市部よりも地方農村部の貧困は深刻である。道路、学校、水道水などインフラ整備も遅れており、さらに農村部はカースト・民族の問題、地理的な要因が地方の人々の生活に都市部以上に大きな負担をかけている。地方農村部ではインフラの未整備、地理的条件などにより豊富な資源があっても投資する企業や投資家が少ないため、地方の人々は苦しい生活を余儀なくされている。

したがって本稿では、ネパール農村部における貧困問題の解決と雇用の創出を図るためネパール国ラメチャップ郡の地域で自生しているミツマタを活用した「手漉き紙 BOP ビジネス・モデル」を構築する。

研究の方法として、初めに、参考文献、統計資料、現地調査および各種 URL にもとづいてネパールの地理的条件、社会的・文化的構成などを踏まえて、ネパールの貧困問題について分析する。次に、途上国における貧困問題に対応する日本企業の BOP ビジネス・モデルについて事例研究を行う。事例としては、本研究に多くの示唆を含む、バングラデシュにおける雪国まいたけの緑豆栽培事業を取り扱う。最後に、成功したビジネス・モデルの事例研究に基づき、ネパールにおける「手漉き紙 BOP ビジネス・モデル」を構築する。